

## 郡上農林事務所の普及活動状況

令和2年7月22日現在

### 今月の重点活動

#### ■スマート農業 夏だいこんでスマート農業実証スタート

新型コロナ影響緩和のための緊急経済対策として「労働力不足の解消に向けたスマート農業実証」が、郡上市の「ひるがの高原だいこん」を対象にスタートした。

実証では、外国人技能実習生の入国が困難となって不足する労働力をロボットトラクタなどスマート農業技術により補うことで、地域での新たな雇用導入や作業体系のモデル化を目指す。

30日には、参画機関による推進会議に併せ、リモコン草刈機とアシストスーツの実演会を開催する予定で、地域の農家からも高い関心が寄せられている。

農業普及課は、進行管理役としてスマート農業技術の実証を進めるとともに、得られた成果の普及に取り組む。



【急傾斜も作業可能な  
リモコン草刈機】

### 多様な担い手づくり

#### ■女性農業経営アドバイザー 今年度の活動計画を協議

今年度の女性農業経営アドバイザーでの活動計画を協議するため、15日に第1回となる郡上地区全体会議を開催した。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、県内の全地区が集まり実施予定だった研修会が中止となるなか、代わって地区ごとの活動をどの様に盛り上げるか積極的な意見交換が行われた。

結果、主要な行事である郡上市農業女子会については、まずは開催の方向で準備を進め、今後の状況の推移により開催可否を判断することとした。

農業普及課では、ウィルス対策に配慮しつつ、女性農業者の交流活性化に向けて支援を継続する。



【会議も三密を避け開催】

### 売れるブランドづくり

#### ■夏秋トマト 新品種「麗月」の栽培指導

郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会では、収量の高い品種「麗月」の導入を進めており、今年度は部会面積の13%にあたる0.9haで栽培が行われている。

6月以降は、低温のため収穫時期が遅れたことで大玉となり樹体への着果負担が大きく、梅雨時の日照不足とも重なって茎の先端が細くなるなど草勢が一気に低下した。

農業普及課では、樹体への負担を軽減するため摘果の徹底や追肥量の調整について説明し、9月以降も出荷できる草勢にするよう個別巡回や役員会での指導を徹底している。

新品種の「麗月」は導入したばかりで、地元での栽培情報が不足していることから、農業普及課では夏秋トマト部会員と協力しながら、管内に適した栽培方法を検討していく。



【摘果方法を現地指導】

### ■だいこん 岐阜大学で「ひるがの高原だいこん」の講義

7月1日岐阜大学にて、農業普及課が応用生物科学部学生を対象に「ひるがの高原だいこん」について講義を行った。

講義は、郡上市高鷲町の気候・風土やひるがの高原だいこんの歴史、で栽培上の工夫や最新技術などのほか、最近の人手不足や収穫作業のアルバイト募集まで及んだ。

学生からは、病害虫対策や販売方法などについて、積極的な質問もあり、当課普及指導員の話にも力が入った。

農業普及課では、岐阜大学と連携をとりながら、学生への「ひるがの高原だいこん」のPRだけでなく、労働力や担い手確保にも結び付けて行きたい。



【大学での講義風景】

### ■水稻 第6回郡上おいしい米コンテストの開催方針を検討

農業普及課では関係機関と連携し、郡上市産米の食味向上を目指して「郡上おいしい米コンテスト」を毎年開催してきたが、今年はコロナ過のもと、どのように実施するべきかJAや市、農業者を交え、7日総合庁舎にて検討会議を開催した。

農業普及課からは、コンテストによる食味データ収集の意義や売れる米づくりについて説明し、出席者からは人を集めるイベントを止めて、ケーブルテレビなどを利用した新たなコンテストの開催方法について意見が出された。

農業普及課では、今後とも農業者や関係機関とともに知恵を出しながら「郡上おいしい米コンテスト」を通した郡上市産米の振興に取り組む。



【検討会議の様子】

### ■花き ひるがのフラワーサークル トルコギキョウ勉強会を実施

全国的な長雨、日照不足が続く中、ひるがのフラワーサークルのトルコギキョウ部会では、17日に勉強会を開催し、曇天続きによる生育への影響について、情報共有を行うとともに、栽培面での今後の対策について話し合った。

はじめに農家から、各ほ場にて生育状況や生理障害・防除対策の取り組みを説明、参加者からも質問や意見が挙がるなど、真剣な情報交換となった。

農業普及課からは、長雨対策だけでなく、今後は日照が回復することを踏まえて、晴天時の萎れなど高温への対策準備を進めるよう注意喚起を行った。



【生育状況の説明する農家】

### ■かぼちゃ 新たな産地づくりをめざして

JAめぐみのでは、かねてより中濃管内での「かぼちゃ」の産地化を図っており、7月3日には農業普及課と連携して郡上市で初めての栽培研修会を開催した。

市内では、菌床しいたけ生産者を中心に今年度新たに5名が加わり、計6名がかぼちゃ栽培を開始している。

農業普及課では、今後の新たな品目として中濃北部という立地を生かした作業性や収益性についてJAとともに実証を行い、産地拡大の支援を進める。



【ほ場で生育を確認】